

Beyond 5G 推進コンソーシアム 企画・戦略委員会

白書分科会議事要旨（第1回）

1. 日 時： 令和3年4月27日（火）15:30～17:20
2. 場 所： ウェブ会議（WebEx）
3. 出席者：
中村主査（NTT ドコモ）、
ビジョン作業班 小西リーダー（KDDI）、永田サブリーダー（NTT ドコモ）、
技術作業班 中村リーダー（富士通）、下西サブリーダー（NEC）、
ほか、通信事業者、メーカー等、計78名
（事務局）総務省移動通信課新世代移動通信システム推進室
五十嵐室長、江原課長補佐、丸橋係長、守屋係長、杉山官

4. 議事要旨

冒頭、会議開催に先立ち、中村主査から挨拶があった。

（1）白書分科会の検討の進め方について

中村主査から、資料1 B5G コンソーシアム白書分科会検討の進め方について説明の後、質疑応答等を実施。主な内容は以下のとおり。

〈1. 白書分科会の所掌（白書の目的、目指すゴール）〔案〕関係〉

三菱電機・小崎氏：「他の業界」を「多様な業界」に修正した方が良い。

中村主査：修正する。

〈2. 検討推進体制関係〉

中村主査：ビジョン作業班のリーダーを KDDI・小西氏、サブリーダーを NTT ドコモ・永田氏に、技術作業班のリーダーを富士通・中村氏、サブリーダーを NEC・下西氏にお願いしている。

三菱電機・小崎氏：ビジョンについて、通信に関わらない範囲も検討対象とすることで良いか。

小西リーダー：良い。

KDDI・菅田氏：ビジョンの作成に必要なユースケースの調査は行うのか。

小西リーダー：企業からの提案やワークショップの開催等を通じ、盛り込むべきユースケースを決めていきたい。やり方については今後検討する。

阪神電鉄・中村氏：「ビジョン」をまずは作成し、それを実現する「技術」について検討するのが筋と思うが、検討時間の制約もあるので、両方で整合性を取りながら検討を進めるという理解でよいか。

中村主査：然り。

テレコムサービス協会・竹上氏：白書分科会の検討と大阪万博に関する検討は関わりがあるか。
中村主査：関わりはない。現状、白書分科会の検討期間は2年間程度と考えている。
事務局：補足だが、万博については、5G推進コンソーシアム傘下に別途設置される予定の万博分科会において、具体的な検討がされると聞いている。
伊藤忠テクノソリューションズ・佐藤氏：2030年の社会を考える上で、現在の小・中学生、高校生など、その頃に新社会人になる世代から意見を聞いた方が良い。
小西リーダー：様々な方々から意見を聞きたい。具体的な提案など、協力をお願いしたい。
エリクソン・藤岡氏：白書の内容は、各社の公表白書ベースか、各社の提案内容ベースとなるのか。
小西リーダー：各社からの提案ベースとなる。
ファーウェイ・朱氏：白書分科会のメンバーは、どうやって作業班に入るのか。
中村主査：分科会のメンバーであれば、自動的にどちらの作業班のメンバーとなる。

〈3. スケジュール（マイルストーン）[案]関係〉

小西リーダー：Verticalな企業や様々な年齢層を巻きこみたい。5月末までにどのようなところに声をかけるか決めたい。2022年6月のITU-Rのワークショップにて発表するつもり。
中村リーダー：この6月のWP 5Dには白書分科会の検討状況を頭出しする寄書を入力し、以降のWP 5Dでも適宜意見出ししていく予定。
KDDI・菅田氏：WP 5Dに入力し、文書への反映を考えると、時間も限られることから、スケジュールを意識することが大切。2023年6月にWP 5Dでビジョン内容の最終化が行われるとすると、全体のスケジュールを3～6か月前倒しして検討しないと、日本の提案内容を盛り込むことが厳しくなる。
中村主査：2022年3月のVer1.0白書でもそれなりの完成度となっている想定。
エリクソン・本多氏：ビジョンと同様に、WP 5Dで技術内容の最終化が2022年6月に行われる見込み。とすると、Ver1.0白書を2022年3月に入力するのはタイミングとしては少し遅いので、早めの入力が必要と思う。
中村リーダー：検討開始が遅めであるというのは認識している。

〈4. 白書目次（素案）関係〉

中村主査：白書を作成する際は、英文が望ましい。最終的な白書の言語も英語となる。
エリクソン・藤岡氏：「5. 技術動向」という記載は違和感がある。
中村リーダー：WP 5D文書の目次から引用したが、技術作業班において適切な名称を検討したい。
KDDI・菅田氏：2030年頃の社会や生活について、夢のような世界の内容なのか、現実の社会課題を解決できるという内容なのか、どちらの内容を書くイメージか。
小西リーダー：両方。

〈5. ITU-R WP 5D 対応に向けた国内関係機関へのリエゾン体制（案）関係〉

中村主査：本対応をKDDIの菅田氏やNECの武次氏にお願いしている。また、エリクソンの本多氏にも参加してほしい。NTTドコモからも新が協力する。誰でも参加可能としたい。

リクツ・本多氏：参加させていただく。

KDDI・菅田氏：WP 5Dに入力する前に白書分科会メンバーにも了承をもらう必要があるのではないか。

中村主査：何かしらの形で白書分科会のメンバーにも確認してもらうかもしれない。

中村リーダー：メール審議等に対応する予定。審議日程等は今後決めていきたい。

事務局：白書分科会以外にも、コンソーシアムの企画・戦略委員会等でも了承される必要があるか、整理する。

中村主査：寄与文書の提出まで時間もないため、承認プロセスを効率化に向け、事務局や関係団体で持ち帰って検討することとしたい。

(2) ITU-R WP 5D 対応について

中村リーダーから、資料2 ITU-R WP 5D (#38) 会合対応(案)について説明の後、質疑応答等を実施。主な内容は以下のとおり。

ARIB・加藤氏：6月のWP 5Dに寄書入力となると、国内審議の日程も考慮すると、非常にタイトスケジュールとなる。入力内容は、基本的に白書分科会で検討してほしい。

中村主査：日時も限られているため、寄書作成の分担等について、関係者のみで早急に話し合いの場を設けたい。事務局には日程調整をお願いする。

事務局：承知した。

NICT・中川氏：前回(3月)のWP 5D会合にも参加したため、協力やアドバイスが可能。

(3) 会合開催スケジュールについて

中村主査から、「資料1 B5G コンソーシアム白書分科会検討の進め方」の「6. 白書分科会会合開催日程(案)」について説明の後、質疑応答を実施。主な内容は以下のとおり。

中村主査：毎月1回第4火曜日に分科会を開催することとしたい。各作業班のリーダーを中心に適宜作業班を開催し、検討を進めてほしい。

小西リーダー：個別召集は総務省のメーリングリストを活用して良いか。

中村主査：可。

中村リーダー：適宜招集する。次回会合を待たずに、個別に相談するかもしれない。

ソトバンク・佐野氏：白書の対外公表はいつ頃か。

中村主査：第1版は今年度中に完成させたい。0.5版の白書を8月、とかになるかもしれない。

KDDI・菅田氏：参加メンバーのリストはあるのか。

事務局：参加機関(個人名は無し)の共有は可能。異論ないようなので、後ほど共有する。

以上